

## 平成 30 年度 学位記授与式 学長式辞

昨年の雪景色とはうって変わり、水ぬるみ春の息吹する今日、ここに 福井県知事 西川一誠様、越前市市長 奈良俊幸様、本学顧問・元福井大学学長 児嶋眞平様をはじめ多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、平成 30 度の仁愛大学ならびに仁愛大学大学院の学位授与式を挙行できますことは、本学教職員一同の大きな喜びであります。

人間学部心理学科 73 名、コミュニケーション学科 60 名、人間生活学部健康栄養学科 72 名、子ども教育学科 54 名 計 259 名の学士の学位を授与された皆さん、人間学研究所臨床心理専攻 5 名の修士の学位を授与された皆さん、ご卒業および修了おめでとうございます。また、ご列席のご家族の皆さんにおかれましても、お慶びもひとしおと存じ、心よりお祝い申し上げます。併せて、ご子息・ご息女の在学中に本学へ寄せていただきましたご支援、ご協力に対しましても、心より謝意を表します。

さて、皆さんの進路は、一般企業に就職する方、あるいは、栄養、教育、心理カウンセラーなどの専門職に就かれる方、大学院へ進学される方など、さまざまですが、在学中に培われた専門的な知識や技能、体験をベースとして一人ひとりが、それぞれの場で活躍されていくことに、大きな期待を寄せるものであります。

それと同時に、本学の建学の理念に基づく人間的学びも、皆さんの人生に大きな意味をもつものと確信しております。すべての私学に、必ず建学の理念があり、それに基づいて教育目標など様々なポリシーが作られており、教育が実践されております。本学は「仁愛」という大学名が示す通り、『仏説無量寿経』の「仁愛兼濟」ということを建学の理念にしております。平易に言えば、「互いに『いのち』を尊び、共生社会の実現を目指し(仁愛)、世を照らす灯となって、それを実践する(兼濟)。」ということです。また、同じ『仏説無量寿経』に、「汝、自らをまさを知るべし」という言葉もがあります。互いに敬愛し、共に救われていくには、まず自らを知らねばなりません。この言葉は、学内のモニュメントとして中庭の噴水に書かれています。噴水の西から東にむかってたたずむと流れる水面にこの言葉が浮かんでいきます。あたかも、流れは十方に響き流れるようです。これが、仏陀・釈尊からのみなさんへのメッセージです。

私たちは、自分で自分は見えません。なぜなら、自分には甘いからです。「我を見ても我は見えず、法を見る者我を見る」と仏陀はいわれました。法、つまり、教えに照らされて初めて自分のありのままの姿が見えてくるのです。ありのままの姿は、「汚い自分」としか言いようがないのです。それゆえ、『仏説無量寿経』に学んだ親鸞聖人は自らを極重悪人と自覚し、「愚禿」と名乗られました。この「悪人」とは、法律や道徳を犯した悪人という意味では、ありません。さあ、そこで考えてください、私は善人ですと善を誇る人と、私は、愚かな自分でしたと自分に出遇っている人とどちらが仏に近いでしょうか。もちろん、後者です。だから「親鸞は善人よりも悪人が救われる」とおっしゃったのです。それは、自覚としての悪人です。真理の前に、謙虚に自己を問うことのできる人、それが本学の目指す人間像です。

人は傲慢になったとき、心を失い、友を失い、人間を失います。

科学技術は目覚ましく、発達しました。あらゆる技術は、人工知能、A I に取って代われそうです。そこでは、「人間」が失われていきます。しかし、心や情、そして、精神を持つものが人間です。これからの時代は、改めてその心や、精神が問われる時代となります。「科学はモノを見る目、宗教は心を見る目」です。「人間」を回復する学びの場が本学だったのです。このような、「ソールメイキング・キャンパス仁愛」での学びは、皆さんのこれからの人生の礎となることでしょう。

最後に、皆さまのさらなるご活躍と人生の深い営みをされますことを願ひまして式辞といたします。

平成 31 年 3 月 14 日  
仁愛大学 学長 田代俊孝